

## はじめに：

「目的のための手段」という表現を聞いたことがありますか。例えば、バスは目的のための手段です。あなたがバスを利用する理由は何ですか。バスが大好きで、バスに揺られて、500m ごとにバス停に止まるのが好きだからですか？そうではなく、バスはある場所から別の場所へ行くために利用するものですよ。一方、グレートオーシャンロードに行くと、料金を払って遊覧飛行することができます。小さな飛行機でしばらく飛行し、同じ場所に戻ります。これは、どこかへ行くための交通手段ではありません。遊覧飛行はそれ自体が目的です。

人間関係についても同じことが言えるでしょう。例えば、スーパーのレジで店員に「こんにちは。今日何かおもしろいことがありましたか。」と話しかけるかもしれませんが、スーパーへ雑談するために行っているではありません。正直なところ、その店員は目的のための手段です。私が店員に会うのは、食料を買いたいからです。しかし、私と妻との関係はこれとは全く違います。想像してみてください。バレンタインデーに私が妻にこう言ったら何と興ざめでしょうか。「ああ、君は僕にとって本当に役に立つ人だ。君の料理は僕の健康を維持するのに十分だし、君がいなければ清潔な服もなくなってしまうよ。」もちろん、そのようなことを感謝していますが、それは私が彼女を愛している理由ではありません。私が彼女を愛しているのは、つまりは、彼女をただ愛しているからです。妻は私にとって手段ではなく、目的です。

さて、今日は皆さんにイエス様との関係について考えていただきたいと思います。イエス様はあなたにとって目的のための手段ですか。それともイエス様ご自身があなたの目的ですか。

マルコ 14 章冒頭を開いてください。最後の晩餐について聞いたことがあるかもしれませんが、これは最後から二番目の晩餐です。

まずこの場面を想像してみましよう。どのような状況でしょうか。そしてこのような状況になったとき、あなたならどう対応しますか。次に、二人の登場人物について理解を深めたいと思います。そして最後に私たち自身の心について考えます。

## 場面を想像する：

では、ツァラアトに冒されたシモンの家の食卓へ行きましょう。その部屋にはイエス様と仲間数人が、忙しい一日を終えてリラックスしています。その前の 1 週間、彼らは町のすぐはずれにある村に泊まりながら、毎日移動していました。そしてイエス様は、ご自身がもうすぐ捕らえられ、殺されることを何度か話されました。その当時のイエス様と祭司長たちの間に起こっていることから考えると、それは今にも起きそうなほど、緊張が高まっていました。

おや、女性が高価な香油の壺をもって入ってきました。ですが、これは特に変わったことではありません。ここでこの場面を一時停止しましょう。私の経験から少しお話させてください。ご存じの方もおられるでしょうが、私は中東で特に伝統を守っている地域に数年住んでいました。そこでは、近所の男性たちが誰かの家で集まると、クッションに横たわり、銃や釣りなどの話をしながら食べたり飲んだりします。そして帰る頃になると、その家の人や隣の部屋から香油の壺を取ってきます。彼は来客に順にその壺を回し、それぞれが香油を自分に振りかけて、良い香りを漂わせながら、各々の家に帰っていきます。中東では香りは大変重要です。このようにして、来客をもてなすのです。

では、もとの話に戻りましょう。この女性は、香油が 10ほど入った大きな壺を抱えています。その壺の上の部分割り、最後の一滴までイエス様の頭に注ぎます。その香油はイエス様の頬、服をつたって足まで届いたでしょう。家中に充満する香油の香りがしてきましたか。

しかも、この香油は 500 円程度の安物ではありません。遠くネパールのヒマラヤ山脈から輸入されたものです。ある人の計算によると、一年分の収入に相当する額だそうです。一壺 400-500 万円相当の香油です。彼女がそれをどうやって手に入れたのかはわかりません。結婚のお祝いだったかもしれないし、祖母から受け継いだものかもしれません。彼女の行動をあなたはどのように思いますか。

その場にいた人の中には、香油の無駄遣いだと思う人もいました。そして彼女をたしなめます。彼らの考えによると、その香油を売って、貧しい人を助ける働きに使えただろうというのです。しかし、6,7 節のイエス様の返事に注目しましょう。「彼女を、そのままにさせておきなさい。なぜ困らせるのですか。わたしのために、良いことをしてくれたのです。貧しい人々は、いつもあなたがたと一緒にいます。あなたがたは望むとき、いつでも彼らに良いことをしてあげられます。しかし、わたしは、いつもあなたがたと一緒にいるわけではありません。」

イエス様は、貧しい人々のことなんて誰が気にするのかと言っておられるのではありません。実は、思いやりのある生き方について旧約聖書から引用されています。

貧しい人が国のうちから絶えることはないであろう。それゆえ私はあなたに命じる。「あなたの地にいるあなたの同胞で、困窮している人と貧しい人には、必ずあなたの手を開かなければならない。」(申命記 15:11)

また、彼女はあなたのお金を使っているのではありません。貧しい人を助けたいなら、行ってそうすればよいのです。

イエス様は、これが世界の歴史において、いかに重要な瞬間であることを示しておられます。なぜなら間もなく、イエス様は殺されるからです。(この地の文化では、香油を塗ることで、亡くなった人に敬意を表します。) ですから、彼女は実に時にかなったことをしたのです。

また、貧しい人が本当に必要なものは現金だと考える人もいます。確かにお金は役に立つし、苦しい時を乗り越える助けになることもあります。しかし、お金はあなたの人生を方向転換させるのでしょうか。また、お金は、痛みや傷や、かせとなっている悪い習慣に対処してくれるのでしょうか。実際、金銭を投入することだけで貧困を解決しようとするのは、私たちの社会がいかに壊れたものであるかを正しく理解できていないということです。イエス様は、貧しい人々が必要なものは、最終的にはイエス様ご自身が十字架で、多くの人の罪の代価としてご自身のいのちを捧げることだと言っておられます。社会の問題をたどると、どれもその根源にあるのは罪であり、罪がつくり出す恥や自己中心です。(貧しい人はより悪い罪人だということではなく、むしろ他人の罪の被害者です。) 中心にある問題は罪です。では、イエス様は罪をどう対処されるのでしょうか。

十字架です。罪人たちのためにイエス様が死んでくださったことにより、私たちは赦しを受け、思い罪の意識や、恥の暗闇から解放されて生きることができるようになり、イエス様にある信仰を通して壊れた人生を立て直すことができるようになるのです。ですから、この場面は世界史上、特別な瞬間です。この女性がこれをどこまで理解していたかはわかりませんが、この時の彼女の愛の行動は、彼女が思う以上に重要で、また美しいものです。

## 登場人物を知る：

この話に登場する二人についてももう少し考えてみましょう。まずは女性です。この話は、聖書の他の著者らによっても記されており、その一人はヨハネですが、彼はこの女の名前はマリヤだと言っています。(ヨハネ 12:3) マリヤは、イエス様がよみがえらされたラザロの姉妹です。ですから当然、彼女は感謝の気持ちでいっぱいです。マリヤはまた、手際よく動かないタイプの人です。ルカによる福音書に記録

されている話を覚えていますか。イエス様がマリヤの家に行かれた時、マリヤの姉マルタはもてなしのために忙しく家事をしましたが、マリヤはイエス様の足元に座って、その話に耳を傾けました。

今日の話でも、マリヤは壺に入った香油の実用的な使い方を考えていたわけではなさそうです。彼女は「私の愛を示し、イエス様を崇めたい。イエス様こそが私のすべてだから。」と考えていたのでしょうか。そして、マリヤは再び実用的な行動を取り損ねます。しかし、イエス様は再び彼女をかばわれます。

次の登場人物はイエス様の弟子の一人でイスカリオテのユダという男です。彼は、マリヤの行動に一番腹を立てた人物です。ヨハネによる福音書にはもう少し詳しい記録があります。(ユダはマリヤに憤慨していた人の一人ですが)「彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心に掛けていたからではなく、彼が盗人で、金入れを預かりながら、そこに入っているものを盗んでいたからであった。(ヨハネ 12:6)

本来、イエス様につき従う人々の中の一人であるはずのユダは、泥棒でした。最近話題になっているジョージ・ペル氏のニュースと同じくらいショッキングです。香油の価値を勘定していたユダは、貧しい人々をどれだけ助けられるかはあまり考えていませんでした。むしろ、「20%ほど上前をはねれば、一日の稼ぎとしては十分だ。」と自分のことを考えていたのです。

ユダがイエス様について行こうと思った動機は何だったのでしょうか。イエス様の行なわれた奇蹟に心を動かされたからでしょうか。それともイエス様は王の王で、友人になったら特別扱いしてもらえると考えたのでしょうか。ユダは、イエス様が繰り返し、これから死に向かっていると話されることにはあまり関心を示しませんでした。ユダにとっては、それは成功するプランではなさそうだったからです。彼が何を考えていたかは、はっきりとはわかりません。

しかし、彼はお金にとっても執着していたようです。話の続きを見ると、マルコ 14:10 で彼はイエス様の敵である祭司長たちのもとへ行き、「イエスを引き渡したらいくら払うのか。」と交渉したのです。「イエスは私が欲しい物をくれなさそうなので、他をあたろう。」と考えたのでしょうか。

イエス様は、ユダにとって目的のための手段であり、マリヤにとっては目的そのものであったことがわかりますか。

## あなた自身の心：

この話は、私たちに自分の心についてよく考えるように促しています。今日ここにおられるあなたが、まだイエス様に従う決心をしていないならば、どうかあなたが正しい問いをされますように。ここにきて、自分の利益を勘定することもできます。「私がクリスチャンになったら、神様は今よりいい仕事や、良い友人や、健康や、社会的に有利なことを与えてくれるかもしれない。」実際に神様はそうされるかもしれませんが。与えることのできるお方ですから。しかし、クリスチャンになることは、損得勘定で決めることではありません。あなたがイエス様につき従いたい理由がそのようなものであるなら、あなたは大切なことを見逃ごしてしまっています。

実際、あなたがクリスチャンになって得たいと思ったものをイエス様が与えてくださらないという体験をするときがいつか来るでしょう。その時、あなたは憤慨したり、がっかりしたりするかもしれません。自動販売機に小銭を入れたのに、何も商品が出てこなかった時のように。

イエス様が私たちに与えてくださるものの中で、もっとも素晴らしいのはイエス様ご自身です。イエス様は、ご自身を通して私たちの神様との関係を回復し、楽しむ機会を与えてくださいます。トマス・ア・ケンピスという人が次のように言っています。「賢明な人は、愛する人からの贈り物よりも、その贈り主の愛を大切にします。」ですから、キリスト教がどんなものか試したい、聖書がどんなものか試したいという人は、次のような問いを考えてみてください。「イエス様とは誰か。私が愛すべき方か。教会の人々が言うように、麗しく、愛にあふれ、また今生きておられる方か。」私たちは誰かや何かを愛するように造られました。「誰か、私が愛すべき人を教えてくれないか」とフレディー・マーキュリーも歌っています。私がお教えしましょう。その方は、イエス様です。

考えてみてください。私たちがイエス様を受け入れるとき、イエス様の愛に、愛で応答するとき、あらゆる利益が伴うのです。マリヤを見てみましょう。彼女の一番の宝はイエス様です。彼女はイエス様を崇めます。イエス様は彼女の神様です。その結果、彼女もまた誉れを受けます。それがイエス様が 9 節で言っておられることです。「まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念として語られます。」そして 2000 年後の今、地球の反対側で、私たちは彼女について語り、彼女の行動を称賛しています。

一方、イスカリオテのユダは、その名を口にするのも気が咎められます。彼は裏切者、泥棒、そして偽の友です。わかりますか。最後には、あなたの一番の宝が永遠の誉れか、永遠の恥をもたらすのです。

ユダはイエス様に背を向けたとき、金という神を選びました。彼は救う力や、永遠の誉れをもたらす力のない神のために生きることを選んだのです。それは、成功、人気、快樂という神についても同じです。

しかし、あなたがイエス様を一番の宝とするなら、あなたは力強い救い主であられる神様を得ます。また、神様が約束されたことを実行することのできるお方であることは証明済みです。

この話には、クリスチャンも忘れてはならないメッセージがあります。おかしなことですが、私たちはイエス様に仕えることに関わっていくほど、大切なことに集中することが難しくなっていきます。マリアのイエス様への愛の表現は実用的ではありません。そこから、私は、教会は何と様々なことにとらわれがちだろうと思われました。「今日奉仕する人は皆そろっているか。食事当番の人に連絡が行っているか。新来者は会堂への行き方がわかるか。」このようなことを世話することも必要です。全て役に立つことです。しかし、突き詰めて考えると、私たちはなぜここにいるのですか。どうしてそれらのことをするのか。また私たちの周りにはいる人々になぜ伝道をしようとさえ思うのですか。

それは、私たちがイエス様を愛しているからではないですか。私たちの美しい救い主にもっと近づきたいと思うからではないですか。私たちのためにご自身のいのちを捨ててくださったお方を称えたいのです。死に打ち勝ち、私たちを神様との永遠の親しい交わりに招いてくださる力強い救い主を称えたいのです。

最後にこの詩をおわちして終わります。

イエス様の 2 つの見方

利益か、尊敬か。

一つは暗闇へ、

もう一つは栄光へ導く。

利益を求めれば

必ず失望する

イエス様の道は険しく

イエス様は死のために、油注がれたから。

しかし、我々のための死は素晴らしい！

我々を絶望から救い、

裁きを取り除く。

何も思い煩わず、我らは愛する。(ルカ 10:41)

銀を持っているなら

今日、貧しい人に与えなさい。

私たちの愛の贈り物を受けるにふさわしいお方へは、

私たちの言動全てを捧げるのだから。